

計り知れない贈り物

クンティ・ギロン

1981年10月の晴れた秋の日に、シュリー・ニッティヤーナンダ・アーシュラム(現在のシュリー・ムクターナンダ・アーシュラム)に住んでいる人たちと訪問セヴァイトたち全員が、下のロビーに集まっていました。バーバがグルデーヴ・シッダ・ピートゥに戻る前日のことです。これは、バーバの3回目の世界ツアーの最後の日でした。

バーバは彼の住まいから出てきて、下のロビーに座りました。私たちは全員彼の周りの床に座り、ロビー全体を埋め尽くしました。バーバは、彼がインドにいる間、シュリー・ニッティヤーナンダ・アーシュラムでセヴァーをささげる人たちに、別れの言葉を言いました。

私はバーバが話す一言一言に聞き入っていました。ある時点で、バーバは言葉を止め、壁、天井、窓の外の庭と、左右を見回しました。

バーバは言いました。「これらはすべて、私の望んだことではなかった。私が今まで望んでいたのは、私のマンゴーの木の下に座って神の名をチャンティングすることだけだった。これはすべて、私のバーバのおかげで起こったことだ。私はグルの命令に従い、そしてこれらすべてが起きたのだ」

バーバがこう言うのを聞いた時、私の心は非常に動かされました。彼の言葉は、世界中の探究者にシャクティパートとシッダ・ヨーガの教えという計り知れない贈り物をもたらすために、バーバがその人生で行なったすべてのことに対するより深い洞察を私に与えました。

バーバのグルに対する愛と、彼がグルの命令に従うことにより、私や何千人もの人々が、今も将来も、シッダ・ヨーガのグルの恩恵と祝福を受けることができます。その日ロビーで、バーバがグルの命令に従ったことによる慈愛あふれる結果を私たちと分かち合ったのは、貴重なひとときでした。

私は、彼のグルとすべての人類に仕えたバーバの人生に永遠に感謝しています。



© 2022 SYDA Foundation®. 著作権所有。